

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.93
2020.11



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

孤軍奮闘の“ヒロバネヒナバッタ”

突然冬に突入したように降り積もった雪は順調にとけ、再び晩秋の装いになった森でヒロバネヒナバッタに出会いました。少し懐かしいゼンマイ仕掛けのおもちゃの音にも似た「シュルシュルシュル……」と控えめな音が聞こえてきました。探そうにも一面褐色の落ち葉の世界。姿を見つけるのはとても困難で、途切れながらもかすかに聞こえてくる音に耳をそばだてて集中すること約1分。ようやく音の主を見つけることができました。夏から秋にかけてあちこちで音合戦？していたヒナバッタ達がほとんどいなくなったこの時期に、一体何のために音を出しているのだろう…。縄張りの主張？それとも、気づかなかただけでメスが近くにいたのかも？立派な後ろ脚がぼやけて見える程高速に動かし孤軍奮闘している姿に疑問がわいてきました。“鳴く虫”と聞けばすぐに思い出されるスズムシやセミほど知られてはいないものの、ヒナバッタも音を使って仲間とやり取りしています。人にはかすかな音にしか聞こえませんが、仲間同士ではもっと詳細にやり取りしているのでしょうか。今回のヒナバッタに限らず音や光、匂いなどでやり取りしている昆虫達と自分もそれらを駆使してコミュニケーションできたらさぞかし楽しいだろうなあ…。

What is
“Hirobanehinabatta”?
『褐色の小さなバッタ』

バッタ科

体長：♀25～30mm

♂23～28mm

分布：北海道～九州

イネ科やササ類などを食べる植物食。前翅のこすり器に後脚のやすり器を高速ですりつけて音を出す。オスはよく音を出し、音にはいくつかのパターンがある。

(同定協力：岩手虫の会 伊達 功氏)
(参考図書：『鳴く虫の科学』『バッタハンドブック』)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

“ひま、やることがない。
 なんて間抜けなセリフなこと。
 春は花を見て、夏は太陽を浴びて、
 秋は落ち葉を踏んで、冬は静かに春を待つ。
 やることがないんじゃないわ。
 やることがわかってないのよ。”
 (リトルミイの言葉)
 トーベ・ヤンソン『ムーミンシリーズ』より

倒木を読む

第4話

あごが丈夫な腐朽材食性昆虫



左上：規則正しく並んだ脱出孔
 右上と左下：カミキリムシの幼虫
 右下：トビムシの仲間
 同定協力：伊達 功氏 (岩手虫の会)

網張にはキツツキの仲間が年間を通して生息しているが、主食の一つは木の中にある昆虫だろう。今回、網張薬師社前に積まれていた丸太を一部分解し、中にある生きものの調査を試みた。一般的に朽ち木の腐朽初期はタマムシやカミキリムシ等が入り、腐朽中期～後期はゴキブリやアリ等様々な生きものに利用されやがて腐食に至る。調査ではやはり、カミキリムシの幼虫が何匹も見つかった。体は白く柔らかいが、頭は茶色で立派な大あごが特徴だ。彼らは本来幼虫の間はずっと朽ち木の中で過ごし木材腐朽菌が侵入した材を食べ、さなぎを経て羽化した成虫は木の表面に脱出孔を開けて外へ出る。脱出孔は菌類やトビムシ等の小動物の侵入路になるとともに、朽ち木を食べる昆虫の産卵の場にもなる。腐朽材食性昆虫は分解者であり、他の生きものを朽ち木に導く開拓者だ。そしてキツツキ等の捕食者にとって良質なタンパク源にもなり、森の命をつなげていく。

Q.朽ち木の中で越冬する昆虫について教えてください。

A.朽ち木は冬を越す生きものにとって、寒さや天敵から身を守る事ができる居心地のいい場所なんだ。今回の調査ではオサムシの仲間が見つかったけど、ほかにもクワガタやカメムシ、テントウムシの仲間が利用します。意外な所ではスズメバチやケラ、カブトムシの幼虫等が見つかった事もあるそうだよ。その他に元々朽ち木を生活の場にして昆虫やクモ、昆虫以外の小動物など数多く、朽ち木は冬も安心な森の優良物件と言えそうだね。



ホソアカガネオサムシ



アミハリ・バーズ Vol. 36

アオバト

科名：ハト科
 全長：33cm
 生態：留鳥または漂鳥
 分布：日本全国
 (北海道では夏鳥
 南西諸島では冬鳥)



「オーオーオー、アーアー」とまるで人がふざけているような独特な声の持ち主です。果実や種子などを食べる植物食で、網張ではナナカマドの実をついばむ数羽の群れを見た事があります。以前、テレビ番組で海水を飲みに来るアオバトの集団が紹介されていました。その行動の理由は、植物食で不足しがちなミネラルやナトリウムを補給しているのだとか。とはいえ、内陸で暮らすアオバトは簡単に海まで飛んでいくわけにはいきません。推測ですが、日本は世界有数の火山地帯であり温泉にも恵まれているため、内陸にも不足しがちな栄養素を補うスポットが点在するのではないのでしょうか？各地の温泉や鉱泉でアオバトの目撃事例もあるようですが、真相はいかに…。

網張 岩手山

私のっておきの1枚



今回の私のっておきの1枚は、岩手山遠望。なぜこの写真を選んだかという、雫石の景色の中で私が1番好きな風景だからです。山に登るのはもちろんですが、その姿を愛でるのもいいですよ。見る方角によって姿が変わる岩手山は、雫石から見るこのデッカイ景色がやっぱり好きです。

私は雫石に移り住んで今年で4年目、この3月まで地域おこし協力隊として活動していました。雫石に来てから、ずいぶんご無沙汰していた山歩きを再開して、2年前にはクマさんと鉢合わせしたりしながらも、懲りずに山へ出かけています。

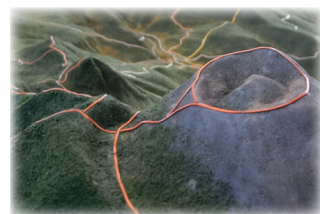
さて、この風景に出会ったのは移住する前の年です。雫石暮らしを体験しようと、お試し居住という制度を使って町に1週間滞在した時、レンタカーで町内をあちこち走り回りました。そんな時、「ここを曲がったらどこへ行くんだろう?」と、以前通った時に気になっていた道へ「行ってみよっ」と車を走らせると... 木々の間を抜けたとたん、いきなり視界が開けこの風景が現れたのです。でも、実は写真にはこの時目の前に広がった景色の半分しか写っていません。写真に写る岩手山から鎌倉森、ちょこんと顔をのぞかせる三ツ石山に続いて、高倉山、丸森、そして秋田駒ヶ岳まで、牧草地の向こうに山々のスカイラインが連なっているのです。「なんじゃこりゃあ!」、どこまでも広く、人工物もほとんど見えない、気持ちまででっかく大らかになりそうな景色に、あっという間に魅了されてしまいました。“こんな景色の中で暮らせる”、移住を決めた理由の一つはもちろんこの風景です。私は、雫石の風景は「視界が広い」と感じるのですが、ここはそれを1番実感する場所です。緑いっぱい夏、雪に覆われた冬、今も季節毎お天気のいい休日にはこの風景に会いに行きます。この風景を見ていると、ちぢこまった気持ちもふわっと広がりますよ。

雫石町 観光商工課 集落支援員 江頭 理恵 氏

環境省 盛岡管理官事務所からのお知らせ

◆・◆ ビジターセンター改修工事 ◆・◆ 進捗レポートⅢ

長かった改修工事も、いよいよ大詰めです！解説展示が着々と出来上がり、何もなく空間がすこしずつ、にぎやかになっていきます。新しく作った展示だけではなく、これまでもあった展示をバージョンアップしたものもあります。例えば、岩手山の形をわかりやすく見せてくれていた模型も、さらに広範囲に、さらにきれいになりました！しかも、CGを使って…これ以上は、新しくなったビジターセンターに来て、見てください！工事は11月で終わりますが、それ以降もすこしずつ、手を加えていきますよ。



(AR機能搭載の岩手山地形模型)

自然観察会報告

写真提供：岩手山地区パークボランティア

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

9月26日 -国立公園で楽しむ親子の自然体験- 「森で楽しむ♪花あそび・草あそび」



見慣れている草花や木の实がおもちゃに変身！網張の森で、自分で採ったトチの実の中身を丁寧にくり抜くと…「ピーッ」実笛の出来上がり。落ち葉を障子紙に挟んでトントンとたく『たたき染め』にも挑戦。本物の葉のようにきれいな色が気紙に写し出されると歓声があがりました。「古くて新しい」「自然の中で遊ぶヒントをもらった」-参加者より
総勢 17名参加

「日常の身近なところに自然の遊びの要素が転がっています。難しく考えずに遊びながら自然に触れ合って欲しいです」
-講師の松木佐和子氏より-

10月10日 「アートな秋・鞍掛山麓スケッチ入門」



「へたな方が面白い味がある」
-講師の広野孝男氏より-

紅葉の美しい秋の鞍掛山麓を歩きながら、スケッチを楽しみました。「スケッチに苦手意識がありましたが、いつもとは違う視点で自然や景色を見て楽しかったです」「ただ歩くだけではなく、こんな楽しみ方があるという提案をもらった」などの感想がありました。記録として写真は手軽ですが、何かを見つけ感じたらその場でスケッチするという山の楽しみ方を堪能しました。
総勢 14名参加



インフォメーション

ビジターセンターの自然ふれあい行事は初めてのかたでも気軽に参加できます♪

詳しくはビジターセンターまでお問い合わせ下さい！

12月19日(土)～スノーシューハイキング～ 「新雪の網張でクリスマス気分★」

9:30～12:00 網張ビジターセンター集合
定員：10名 参加料：大人500円 小学生300円

1月17日(日)「この時期しか歩けない！ 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク」

9:30～14:30 たきざわ自然情報センター集合
定員：10名 参加料：大人500円 小学生300円
※1/17の行事は定員締切とさせていただきます。

☆新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になる場合もございます。最新の開催情報を事前にご確認下さい。

11月3日 - 森のクラフト体験 - 「ミニミニツリーを作ろう！」



晩秋の気持ちのよい日差しの中、ビジターセンター周辺の森を散策し、クラフトで使う実がどんな木につくのかなどを観察しました。その後は館内の戻り、ツリー作りに挑戦。松ぼっくりを積み上げたり、紙粘土の土台に束ねた杉の葉を立てたりしてビーズや星、ベルなどを飾り付け、一人ひとりのオリジナル、世界に1つの素敵なツリーを作りました。
総勢 16名参加

網張の森 散策行事

10月3日(土) 雫石町社会福祉協議会「しずくいしさんぽ」
雫石町民：黄金色に輝く雫石町の景観や初秋の網張の自然を観察しながら森を歩きました。

10月23日(金) フレンド滝沢「秋の遠足 自然散策」
滝沢市の中学生：雨の日ならではの森の散策と木の葉のたたき染めを楽しみました。



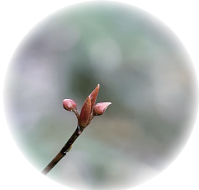
しずくいしさんぽ



秋の遠足 自然散策

モモンガのつぶやき

11月中旬のある日、ビジターセンターから湯ノ沢大橋を渡って休暇村へ向かう途中、2つの小さな雪だるまを見つけました。網張の本格的な冬はもうすぐそこです。葉をすっかり落とした木々の枝先に目を向けると冬芽が並んでいます。写真はオオバクロモジの花と葉の冬芽。暑い夏の盛りから早くも冬、そして翌春まで見越した準備をしっかりと整えているこの生命のメカニズムにただただ感動です。(C)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 9月 1,834人 ◆ 10月 2,181人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 9月 13.4℃ ◆ 10月 5.7℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(11月から3月末まで) 9時～17時 毎週火曜日休館
年末年始休館(12月29日～1月3日)